

団体別成績票の見方

準1級から5級までの受検については、指導者向けに団体別成績票が発行されます。階級ごとに学習の成果や課題が確認でき、今後の学習指導に役立てていただけます。

第XXX回 2020年4月1日 実施
実用数学技能検定 団体別成績票 指導者用

受検階級: 3級 団体名: 数検中学校

受検結果

受検者数	35人
合格者数	30人
1次のみ合格者数	3人
2次のみ合格者数	0人
不合格者数	2人

合格率: 団体 85.7%, 全体 84.2%

階級	団体の平均点	全体の平均点	団体の最高点	団体の最低点	合格点
1次	26.7点	22.8点	30点	20点	30点中 21点以上
2次	15.4点	12.7点	19点	6.5点	20点中 12点以上

団体の点数の分布

1次: 計算技能検定 (A) 2次: 数理技能検定 (A)

学年別 & 領域別 正答率

	中学校 1年	中学校 2年	中学校 3年	合計
数と式	93.1%	90.3%	83.3%	88.6%
図形	89.3%	79.4%	64.7%	80.0%
関数	86.7%		78.6%	82.0%
データの活用	73.5%	92.3%		87.6%
合計	90.2%	87.1%	81.0%	88.1%

評価コメント

合格率は85.7%でした。問題別正答率が受検者全体より高かった問題数は、1次では30問中30問、2次では20問中18問でした。
受検者全体と比較して不十分だった問題は、2次6(12)「2次方程式」
中学校3年の問題の中で最も正答率が高かった領域は、数と式です。授業では、より発展的な題材を扱うことが考えられます。たとえば、n角形の対角線の数を求める式をついたり、ボールを投げ上げたときのある地点を通過する時間を求めたりする活動が挙げられます。1つ上の準2級の出題範囲は、中3~数1Aです。ぜひ、ご利用ください。

受検結果
団体と全体について、合格率や平均点を表示しています。全体と比較したときの、団体の傾向がわかります。

内容別正答率
学年別や領域別に正答率を示しています。相対的に到達度の低い学習内容などがわかります。

評価コメント
団体の成績に応じて、評価コメントを記載しています。今後の指導に役立てられるような、有効な手立て、重要な活動、発展的な題材などを示しています。

1次: 計算技能検定

問題番号	単元	正答率(%)	無解答率(%)	単元
0 1	正の数、負の数	97.1	89.5	文字と式
0 2	正の数、負の数	90.0	75.0	方程式
0 3	正の数、負の数	95.7	84.8	空間図形
0 4	正の数、負の数	82.9	65.5	空間図形
0 5	平方根	74.3	35.2	変化と対応
0 6	平方根	85.7	71.0	変化と対応
0 7	文字と式	94.3	91.7	データの活用
0 8	文字と式	88.6	66.0	比率
0 9	式の計算	75.7	56.4	平行線と角
0 10	式の計算	65.7	50.8	図形の合同
0 11	式の計算	67.1	60.3	三角形、四角形の性質
0 12	式の計算	60.0	64.7	2次方程式
0 13	式の計算	100	90.7	2次方程式
0 14	式の計算	82.9	66.5	2次方程式
0 15	式の計算	82.9	64.5	関数y=ax ²
0 16	式の計算	80.0	70.1	関数y=ax ²
0 17	方程式	54.3	36.8	関数y=ax ²
0 18	方程式	2.9	3.6	作図に関する問題
0 19	2次方程式	97.1	85.9	特有問題
0 20	2次方程式	61.4	39.6	特有問題

問題形式別 正答率

問題形式	団体	全体
短答式	91.2	68.5
論述式	5.9	3.8

SAMPLE

解答類型と反応率
実際の解答をもとに反応率をまとめています。重要な内容の問題について、誤答の傾向がわかります。

論述式問題の点数の分布
論述式問題について、部分点ごとの割合を示しています。点数の散らばりについて、団体と全体を比較することができます。

1次 6(27)の解答類型と反応率

解答類型	反応率(%)	
	団体	全体
1 (y=)32 正答 (yがxの2乗に比例し、x=-10, y=50のとき、x=8に対応するyの値)	91.2	68.5
2 (y)=-40 yがxに比例すると捉え、yの値を求めたと考えられる。	5.9	3.8
3 (y)=-32 yの値について、符号を誤ったと考えられる。	0	3.1
4 (y)=1/2x ² x, yの値の組を満たす式を求めたと考えられる。	0	2.4
9 上記以外の解答	2.9	13.3
0 無解答	0	8.9

2次 論述式問題の点数の分布

8(18) 9(20)

SAMPLE

※3級以外の階級については、この資料と内容が異なる場合があります。くわしくは、実用数学技能検定公式サイトでご確認ください。
「団体別成績票について」ページはこちら▶



個別成績票の見方

全階級の受検において、受検者向けに個別成績票が発行されます。
出題された内容と照らし合わせて成績を見直すことができますようになっています。

第XXX回 2020年4月1日 実施

実用数学技能検定 個別成績票

受検階級	受検番号	氏名
3級	3-005	数学 太郎

受検結果		あなたの点数	全体の平均点	合格点	合格
1次	22点	24.9点	30点中 21点以上		
2次	12.5点	13.8点	20点中 12点以上		

成績と評価

学年ごとに、よくできた問題は青色、不十分な問題は赤色で示しています。緑色で示した問題は、途中式や説明などを記述する問題です。
○は正解で1点、×は不正解で0点、小数は部分点として与えられた点数を表示しています。

1次：計算技能検定				2次：数理技能検定			
問題番号	あなたの正誤	全体の正答率	単元	問題番号	あなたの正誤	全体の正答率	単元
1(1)	○	96.4%	正の数、負の数	1(1)	○	94.4%	文字と式
1(2)	○	95.0%	正の数、負の数	1(2)	○	84.1%	方程式
1(3)	○	90.6%	正の数、負の数	2(3)	×	91.5%	空間図形
1(4)	×	77.2%	正の数、負の数	2(4)	×	78.8%	空間図形
1(5)	○	91.1%	平方根	3(5)	×	35.3%	変化と対応
1(6)	×	81.0%	平方根	3(6)	0.5	75.9%	変化と対応
1(7)	○	93.3%	文字と式	4(7)	○	94.4%	データの活用
1(8)	○	76.8%	文字と式	4(8)	○	69.8%	確率
1(9)	○	94.5%	式の計算	5(9)	○	59.7%	平行線と角
1(10)	×	78.7%	式の計算	5(10)	○	57.3%	図形の合同
1(11)	○	94.8%	式の計算	5(11)	○	65.9%	三角形、四角形の性質
1(12)	○	70.0%	式の計算	6(12)	○	64.9%	2次方程式
1(13)	○	82.2%	式の計算	6(13)	○	95.7%	2次方程式
1(14)	○	83.7%	式の計算	6(14)	○	76.8%	2次方程式
1(15)	○	86.4%	式の計算	7(15)	×	65.4%	関数y=ax ²
1(16)	×	60.0%	式の計算	7(16)	○	79.0%	関数y=ax ²
1(17)	○	96.1%	方程式	7(17)	×	48.3%	関数y=ax ²
1(18)	○	90.3%	方程式	8(18)	×	5.7%	作図に関する問題
1(19)	○	55.0%	2次方程式	9(19)	○	91.5%	特有問題
1(20)	×	78.0%	2次方程式	9(20)	×	50.3%	特有問題
1(21)	○	89.0%	連立方程式				
1(22)	○	86.1%	連立方程式				
1(23)	○	94.3%	変化と対応				
1(24)	○	64.8%	データの活用				
1(25)	○	80.8%	式の計算				
1(26)	×	81.4%	平行線と角				
1(27)	×	78.2%	平行線と角				
1(28)	○	77.7%	確率				
1(29)	○	92.8%	関数y=ax ²				
1(30)	×	71.6%	円の性質				

学年別・領域別 正答率

	中学校1年	中学校2年	中学校3年	正答率
数と式				82.1%
図形				37.5%
関数				50.0%
データの活用				100%
正答率	71.9%	80.0%	62.5%	71.3%

評価コメント

3級に合格しました！中学校3年生までの内容をおおむね理解しています。
ただ、「平方根」については不十分でした。高校1年生の「数と式」に関わる重要な内容なので、よく見直しておきましょう。ぜひ、準2級にも挑戦してください！

小問の正誤

小問ごとに、くわしい内容やできぐあいを表示しています。問題に対するできぐあいを色分けしているので、弱点がひと目でわかります。

内容別正答率

学年別正答率や領域別正答率など、階級に応じてさまざまなグラフをまとめています。どの学年のどの領域が苦手なのかなどを確認できます。

おめでとう！次の階級の問題にチャレンジしてみよう！

3. このことを証明しなさい。

(1) n なる2つの奇数の2乗の差は4の倍数になる。
(2) n を正の整数として、 $7n+3$ と表す。

として、異なる2つの奇数を $2m+1$ 、 $2n+1$ と表す。

2乗の差は、
 $(2m+1)^2 - (2n+1)^2 = 4m^2 + 4m + 1 - (4n^2 + 4n + 1) = 4m^2 + 4m - 4n^2 - 4n = 4(m^2 + m - n^2 - n)$
 $= 4(m^2 + m - n^2 - n)$ (4×(整数)の形に式を变形する)
 $= 4(m^2 + m - n^2 - n)$

$7n+6n+1$ は整数だから、 $7(7n^2+6n+1)$ は7の倍数である。
したがって、7で割ると3余る正の整数の2乗から2をひいた数は7の倍数になる。

評価コメント

合否、点数、問題に対するできぐあいなど、成績に応じた評価コメントを記載しています。受検後に取り組みやすい内容がわかります。

問題と解説

合格者には1つ上の階級の問題、不合格者には苦手と思われる領域の問題が掲載されます。

書籍紹介

実用数学技能検定 要点整理	実用数学技能検定 過去問題集	実用数学技能検定 記述式演習帳
<p>苦手分野を効率よく学習！</p> <p>準1~5級</p> <p>定価 1,980円(本体1,800円+税10%) 2級 1,760円(本体1,600円+税10%) 準2級 1,540円(本体1,400円+税10%) 3~5級 各1,320円(本体1,200円+税10%)</p>	<p>最新傾向と対策を確認！</p> <p>準1~5級</p> <p>定価 1,320円(本体1,200円+税10%) 準1級 1,210円(本体1,100円+税10%) 準2~5級 各1,100円(本体1,000円+税10%)</p>	<p>2次合格をめざす方！</p> <p>準1~2級</p> <p>定価 1,980円(本体1,800円+税10%) 準1級 1,760円(本体1,600円+税10%)</p>
<p>本書は、単元に構成されています。また各単元は基本事項の説明と難問度別の問題から成り立っており、全題に向けて着実に学習できる参考書です。</p>		

各書種とも【発行】丸善出版株式会社【発行】公益財団法人日本数学検定協会【発行】A5判
 その他の書籍は、実用数学技能検定公式サイトをご覧ください。お買い求めは近隣の書店、Amazon.co.jp へ

※3級以外の階級については、この資料と内容が異なる場合があります。くわしくは、実用数学技能検定公式サイトでご確認ください。

「個別成績票について」ページはこちら▶



SAMPLE

公益財団法人 日本数学検定協会